

兵庫県保険医協会 但馬支部ニュース

No.144

2015年1月5日発行

発行 兵庫県保険医協会但馬支部
連絡先 〒668-0373 豊岡市但東町久畑1 2 6
高橋診療所 TEL/0796-55-0036 FAX/0796-55-0008

公立八鹿病院問題住民説明会

「私たちの病院を守ろう」

～住民有志主催の説明会に200人が参加～



患者、住民、医師、看護師らが一同に会した

公立八鹿病院の改革をめぐる問題で、住民有志による「公立八鹿病院問題住民説明会」が11月25日に日光診療所（八鹿町）の2階ホールで開かれ、患者、住民や医師、看護師、マスコミ関係者など、約200人が参加した。同病院医師の谷尚名誉院長（協会但馬支部顧問）と近藤清彦副院長がこの間の経過を報告、「南但馬の拠点病院として、正常な診療体制を回復させるためにも養父市長に対し、声をあげてほしい」と参加者に呼びかけた。2面より各先生からの報告を紹介する。
（2面につづく）

（1面からつづく）

「八鹿病院存続に関わる問題」

管理者らが現場の医師に相談なく、改革を強行している。現場の医師の一部は、八鹿病院で働く意欲をなくし、辞めることを決意した医師もいる。

管理者らは、「後任医師の確保に努める」と話しているが、今の時点では何も決まっていないため、病院では患者さんを他の医療機



この間の経過を報告する谷先生（左）と
近藤先生（右）

関へ紹介する準備をしている。診療科によっては但馬地域で診れない状況も危惧される。

私たちは養父市長にこの問題について懇談を行ったが、市長は現場の医師側の話に耳を傾けようとしなない。11月初旬に病院医師13人と職員360人が管理者罷免を要求する署名を市長に提出した。その後も4人の医師が署名している。しかし市長は、この状況において「管理者と医師、双方話し合い、解決してほしい」、「私は両者の間に入る立場にない」と発言するに留まっている。

今回の問題は病院内の内輪もめではなく、八鹿病院が存続できるかどうかに関わる問題。八鹿病院の存続は市長の決断次第という状態になっている。市長を動かせるのは住民皆さんの力。養父市の医療、南但馬の医療を守るために、皆さんの理解と協力を呼び掛けたい。

（近藤清彦副院長の発言より）

「行き過ぎた経営主義が今回の問題を引き起こした」

八鹿病院は過去3回、危機を経験した。いずれも病院経営が赤字になったため。今回の危機は、医師研修制度の改変で医師不足に直面し、医業収益の原資である医師が確保できない状況が続いていることが大きな要因である。一時は、50人を超える医師を擁し、黒字経営を続けてきたが、慢性的な医師不足により34人まで減ってしまった。さらに、高度化する医療機器の購入費用やその減価償却費用が経営を圧迫する結果となっている。

この厳しい状況のなかで、前院長はじめ現場の医師たちは医師確保や厳しい労働状況下で何とかしのいできてくれた。但馬地域の病院勤務医1人当たりの収益を見てみても、八鹿病院の先生方は低くなく、むしろ多い方だ。

今回の問題は、行き過ぎた経営主義によるものと考えられる。不採算でも小児科などは継続する必要がある。それを一律に「収益を上げろ」と言われても、現場の医師は反発する。今の状況を改善するためにも、医師らが働きやすい環境整備が求められる。

（谷尚名誉院長の発言より）

支部シリーズ企画『他科を知る会』（シリーズ第9回）

日常診療で遭遇する皮膚腫瘍の診方を学ぶ



講師の公立豊岡病院
皮膚科 秋山創先生

但馬支部は、9月27日に公立豊岡病院で第9回『他科を知る会』（皮膚科領域）を開催、会員ら5人が参加した。講師の秋山創先生（公立豊岡病院皮膚科）は、「日常診療で遭遇する皮膚腫瘍」をテーマに講演、後半は事前に寄せられた会員からの質問や当日参加者から出された疑問点など活発に意見交換された。以下、参加者からの寄せられた感想文を紹介する。

感 想 文

支部シリーズ企画である他科を知る会「専門医に聞く～開業医ではここまで診てほしい」は公立豊岡病院皮膚科の秋山創先生を講師にお迎えし、「日常診療で遭遇する皮膚腫瘍」をテーマに講義頂きました。以下私が特に勉強になった点を列挙します。

秋山先生の講義では、色素性母斑・脂漏性角化症・尋常性疣贅・アクロコルドンといった良性腫瘍、日光角化症・基底細胞上皮腫といった低悪性度悪性腫瘍、ボーエン病・隆起性皮膚線維肉腫・悪性黒色腫（悪性黒子）・乳房外パジェット病・有棘細胞癌（扁平上皮癌）といった悪性腫瘍について順を追って詳しく解説して頂きました。

講義の中では、アクロコルドンは開業医でもその場でちょん切っちゃって良いですよと説明があり驚きました。日光角化症についてベセルナクリームによる外用治療についても説明頂きました。隆起性皮膚線維肉腫という良性腫瘍と見まがう怖～い悪性腫瘍について詳しく解説して頂きました。乳房外パジェット病のごく初期病変の扱い方の注意を懇切丁寧に説明して頂きました。

事前に寄せられた質問事項では、顔面帯状疱疹の場合は是非皮膚科に紹介して欲しい事、帯状疱疹後神経痛が難治の場合のトラムセット・レグナイトの使用法について解説して頂きました。また難治性蕁麻疹でのプレドニン減量の方法を説明して頂きました。

普段我々開業医が皮膚疾患に関して疑問に思っている事の回答が得られ充実した勉強会でした。個人的には来年も是非とっております。

秋山先生にはお忙しい時間を割いて頂き感謝申し上げます。

【美方郡・下山 均】

第86回評議員会 但馬支部からの発言

但馬地域の医療問題

「先生方の関心と県への働きかけを」

11月16日開催の第86回協会評議員会において、支部長代行で協会理事の谷垣正人先生が「但馬地域の医療問題」について発言した。以下はその要旨。

但馬は、人口で兵庫県の3%だが、面積は4分の1を占める。医師研修制度の改変で医師不足に直面し、それぞれの病院が縮小されながら、何とか維持されている。その後出てきたのがドクターヘリ構想だ。これは、全国一のすばらしい救急体制になっており、多くの医師が集まっている。

しかし、良いことばかりではない。救命救急センターが患者振り分けだけでなく、独自にベッドをもって診療もするので、救急と重なる循環器科などの専門医とのすみわけがむずかしくなり、複数の循環器医師がやめてしまった。

公立八鹿病院では、昨年就任した病院管理者が、新たに赴任した院長補佐らと経営を全面に押し出した病院改革人事を強行し、何人もの医師が辞表を出す事態となっている。11月上旬には医師と看護職員が病院管理者の罷免を要求する嘆願書を養父市に提出した。このままでは、公立八鹿病院の縮小は避けられない。

県のへき地医療政策の結果であり、危惧されることにならないよう、県全体の問題として、先生方の関心と県への働きかけをお願いしたい。

[執行部発言・武村義人副理事長]

但馬支部は、過去に公立病院ガイドラインが出され、公的病院の縮小と統廃合がされようとしていたが、住民運動でかなり持ちこたえたところだ。医師不足は都会でも表れており、救急や小児科の問題を考えると、日本全体の問題だ。社会保障費削減問題とあわせ、医師不足について訴える必要がある。



谷垣先生が報告